

旧万世橋駅 再開発

JR東日本は明治時代に造られた中央線神田～御茶ノ水間にある「旧万世橋駅の遺構」を、歴史を体感できる施設に整備し展望デッキやカフェなどの商業施設に**再開発**することを発表しました。

2013年9月14日に、JR中央線旧万世橋駅の遺構が整備され、公開される。
旧万世橋駅は、中央線の起点として1912年に開業。中央線が1919年に東京駅まで延伸されるとその役割が縮小し、1943年に休止となった。交通博物館が同駅舎前にあったが、2006年に閉館していた。
整備後は、残っているホームを活用した展望カフェと屋外デッキが公開される。
また、神田～御茶ノ水間の赤レンガアーチ高架橋下は、春以降に商業施設が開店する。



JR神田万世橋ビル4階から見た、旧万世橋駅プラットホーム上に作られた「mAacute 神田万世橋」の施設。同施設は日本で最も電車を近くで見られるカフェとなる予定だ

高架下には、飲食店などが入りますが、開業当時の姿が生かされ、
明治から昭和にかけての
日本の歴史が体感できるよう工夫されています。
ホームに上がる階段は開業時のままで、床に花こう岩を削り出したものが使われているほか、壁に使われているタイルは当時の最高の技法で張られているということです。
また、昭和10年に新たに造られたホームに続く階段も保存されています。
JR東日本ステーションリテイリングの三井剛社長は
「訪れた人に旧万世橋駅を巡る歴史や文化を再発見してもらい、
多くの人でにぎわう街になってほしいと思います」と話していました。